

2026年6月26日

恵庭市議会議長 川原 光男 様

会 派 名 子どもの未来を守る会

代表者氏名 太田 実保



印

政務活動費結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の令和8年度研究研修結果報告書について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 2026年 5月 27日から 2026年 5月 28日まで（2日間）

2 内 容

研 究 研 修 名	2026年度日本自治創造学会研究大会
研 究 研 修 会 場	明治大学 アカデミーホール 東京都千代田区神田駿河台1-1
参 加 人 員	1名
研究研修内容	
日本自治創造学会は、地方議会の議員を中心に構成され、自治体の首長なども加わり 市民的な視野に立って、学術と実践の知的交流を通じて日本の再生と地方自治の創造 を目指している学会である。今回は、人口減少下の新たな挑戦～住民に選ばれる魅力 ある自治体を創る～というテーマで、2日間にわたり研究大会が開催された。 開催日程：令和8年5月27日（水）～28日（木） 会 場：明治大学 アカデミーホール 東京都千代田区神田駿河台1-1 主催：一般社団法人 日本自治創造学会 内容：講演、事例研究発表	



研究研修内容
■第1日目：5月27日（水）
大会挨拶 穂坂 邦夫（（財）日本自治創造学会理事長）
<講演>
・「人口減少・デジタル時代の地方自治を探る」
小川 泰則（総務省自治行政局長）
1990年代からの地方分権改革と役割分担論について、また平成の大合併からの学び
国の省庁再編、特殊法人改革、公務員制度改革などを振り返り、県と市町村の役割分担
の実例として長野県が紹介した。
・「スマート・シュリンクの考え方と実践」
小峰 隆夫（大正大学地域構想研究所客員教授）
スマートシュリンク→賢く縮む「人口が減っても住民のウェルビーイングが保たれる
もしくはより高まるような地域を目指す」とのことで、日本の人口減少を止めるのは
非常に難しいという視点から、人口と経済の関係を見て、実践例として岡山県美崎町の
行政改革の取組を紹介した。
・「人口減少時における新たな地域政策のつくり方
“実施した地域の産業政策の是非を検証する”
松原 宏（福井県立大学地域研究所所長・教授）
教授の持論である、地域の産業政策に関わる地域構造論の経済圏の重層性と地域構造
について図を使用して説明した。地域の産業政策の事例としては、新潟県上越市の主要
製造系企業の相関図と、三重県の「マザー工場型拠点立地補助金」について示した。
・「生成 AI を活用する新たな地方の創生策」
金 剛洙（株式会社松尾研究所取締役副社長）
AI の現在地、AI 技術進展の見通し、地方創生と AI の 3 つについての話をした。AI
の現状、主要企業の動き、雇用への影響、AI エージェント時代の人の役割分担、組織再
編、さらに AGI（Artificial General Intelligence：汎用人工知能）についても話した。

■第2日目5月28日(木)

- ・「都市と地方をかき混ぜる“疲弊する都市と地域を同時に解決する”」

高橋 博之(株式会社雨風太陽代表取締役社長)

都市と地方を「かき混ぜる」ことで、疲弊する都市と衰退する地域の課題を同時に解決する事例として、ふるさと住民登録制度による「ワークインライフ」をあげ、関わるたのしさこそ、まちづくりの原点であると述べた。

- ・「持続可能な地域交通を目指して～「交通空白」解消に向けた政策最前線～」

原田 修吾(国土交通省大臣官房審議官)

人口減少や担い手不足による地域交通の減便・廃止で「交通空白」が深刻化しており国土交通省は集中対策期間を設け、医療・教育など他分野や官民の連携、デジタル技術の活用による移動手段の確保を強力に推進していることをデータと共に示した。

<事例研究発表>

- ・空き店舗の再生で“若い世代が行きたくなるまちを創る”

高野 慎吾(元小諸市職員・高野不動産代表)

- ・公共空間に福祉の力とアイデアを使う“ゼロからのにぎわいづくり”

貞松 徹(社会福祉法人ながよ光彩会理事長)

- ・空き家の活用で“元気なまち”を取り戻す

大垣 満(大和郡山まちづくり株式会社代表)

<講師と参加者でディスカッション>

コーディネーター 牛山 久仁彦(明治大学教授)

高野氏の事例では、まちは人の集合体「人の感情がまちをつくる」として、市職員の頃に起ち上げた「おしゃれ田舎プロジェクト」その伴走支援について述べた。

貞松氏は、社会福祉法人として「福祉×交流×学び」を再定義し、みんなのまなびばみ館の事例、JR長与駅のコミュニティスペースの活用などについて説明した。

大垣氏は、「地縁を観光資源に！」消費→愛着となる仕組みづくりとして、奈良県大和郡山市のリノベーションまちづくりの歩みと、各店舗について説明した。

<所見・考察>

本大会は「人口減少下の新たな挑戦」をテーマに、学術と実践の両面から地方自治の未来を模索する有意義な機会であった。

講演では、行政改革やスマート・シュリンクによるウェルビーイングの向上、生成 AI などの先端技術を活用した地域創生など、人口減少を前提とした前向きな戦略が示された。また、都市と地方の交流促進や地域交通の維持といったマクロな政策論から、空き家・空き店舗の再生、福祉と連携した公共空間の賑わい作りといったミクロな先進事例まで多角的に学ぶことができた。

ディスカッション事例はどれも興味深かったが、「人の感情がまちをつくる」という視視点や、一過性の消費を地域への持続的な「愛着」へと変える仕組みづくりは、ハード・ソフト両面において今後の施策展開の核となるものであり、官民が伴走し、多様な主体巻き込むコミュニティの再定義が、まちの賑わいと活力を取り戻す鍵になると思った。

本大会で得た知見と多分野の連携の視点を深く落とし込み、住民に選ばれる魅力ある自治体の創造に向けて、先進地の手法をさらに調査して学び、本市の地域特性に応じた実践に活かしていきたい。

会場の様子

